

香川高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	表現コミュニケーション I	
科目基礎情報							
科目番号	1111			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	情報工学科 (2019年度以降入学者)			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	それぞれの担当教員が準備する教材を使用する。						
担当教員	森 和憲,石丸 健,森 あかね,富士原 伸弘,田村 昌己,中澤 拓哉						
到達目標							
人文系科目 (国語、英語、社会) の内容言語統合型授業を行うことで、社会事象や異文化に対する教養の涵養と、コミュニケーションに必要な4つのスキル (読む、書く、聞く、話す) の全体的な向上と豊かな表現力の育成を図る。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 聞く能力	論理立てた日本語や簡単な英語の文章を聞き、その内容を把握できる。			日本語や英語のまとまった文章を聞き、その内容を把握できる。		日本語や英語のまとまった文章を聞いても、その内容を把握できない。	
評価項目2 読む能力	目的に応じて、自主的に印刷物、インターネットから適切な情報 (英語を含む) を収集できる。			教員の指示により、印刷物、インターネットから適切な情報 (英語を含む) を収集できる。		教員から提供された印刷物、インターネットから適切な情報を収集できない。	
評価項目3 書く能力	自分の考えを論理立てて日本語で書くことができる。また、簡単な英語の文章を書くことができる。			教員の補助があれば、自分の考えを論理立てて日本語で書くことができる。また、簡単な英語の文章を書くことができる。		自分の考えを論理立てて日本語で書くことができない。また、簡単な英語の文章を書くことができない。	
評価項目3 話す能力	調べたことに関して、論理立てて話すことができる。また、自分の意見を簡単な英語で話すことができる。			調べたことに関して、日本語または英語を用いて簡単に説明ができる。		調べたことに関して、日本語または英語を用いて簡単に説明ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	国語、英語、社会の人文系科目の内容統合型授業を行う。チームを組んで持続可能な社会のあり方、国連目標のSDGsに関して調査、分析、検証し、それを日本語と英語の両方でプレゼンテーションすることにより、歴史や異文化に対する教養を身につけ、さらに、コミュニケーション能力の全体的な向上を目指す。						
授業の進め方・方法	1年を3等分して、以下の授業を行う。1) 社会：チームを組んで、持続可能な社会のあり方、国連目標のSDGsに関して調査し、分析、検証する。2) 国語：社会の検証テーマを説明するスライドと日本語原稿を作成する。効果的なプレゼンテーションを行うための技法を学ぶ。3) 英語：国語の授業で作成したプレゼンテーションスライドと原稿を英語で再度プレゼンテーションする。そのための翻訳方法を学ぶ。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス, チームビルディング		学習内容及び到達目標を理解し、取り組む課題を設定できる。 B1-3		
		2週	計画立案と情報収集 (グループワーク)		グループで議論しながら目標達成のための計画を立て、異文化に触れながら様々なレベルの情報を収集する (学習・調査等) ことができる。 B1-3		
		3週	計画立案と情報収集 (グループワーク)		グループで議論しながら目標達成のための計画を立て、異文化に触れながら様々なレベルの情報を収集する (学習・調査等) ことができる。 B1-3		
		4週	調査, 分析, 検証 (グループワーク)		グループの一員として役割を担い、調査、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3		
		5週	調査, 分析, 検証 (グループワーク)		グループの一員として役割を担い、調査、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3		
		6週	調査, 分析, 検証 (グループワーク)		グループの一員として役割を担い、調査、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3		
		7週	調査, 分析, 検証 (グループワーク)		グループの一員として役割を担い、調査、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3		
		8週	調査, 分析, 検証 (グループワーク)		グループの一員として役割を担い、調査、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3		
	2ndQ	9週	調査, 分析, 検証 (グループワーク)		グループの一員として役割を担い、調査、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3		
		10週	調査, 分析, 検証 (グループワーク)		グループの一員として役割を担い、調査、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3		
		11週	プレゼンテーション演習 (プレゼンの基礎を学ぶ・プレゼン資料の製作)		グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3		

後期		12週	プレゼンテーション演習（プレゼンの基礎を学ぶ・プレゼン資料の製作）	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		13週	プレゼンテーション演習（プレゼンの基礎を学ぶ・プレゼン資料の製作）	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		14週	プレゼンテーション演習（プレゼンの基礎を学ぶ・プレゼン資料の製作）	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		15週	プレゼンテーション演習（プレゼンの基礎を学ぶ・プレゼン資料の製作）	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		16週	成績確認	内容の理解度を確認する。
	3rdQ	1週	プレゼンテーション演習（発表練習）	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		2週	発表会 1	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		3週	発表会 2	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		4週	発表会 3	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		5週	発表会 4	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		6週	計画立案 英作文指導	グループで議論しながら目標達成のための計画を立て、異文化に触れながら様々なレベルの情報を収集する(学習・調査等)ことができる。 B1-3
		7週	英作文指導	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		8週	制作、分析、検証（グループワーク）	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
	4thQ	9週	制作、分析、検証（グループワーク）	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		10週	制作、分析、検証（グループワーク）	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		11週	制作、分析、検証（グループワーク）	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		12週	発表会 1	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		13週	発表会 2	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		14週	発表会 3	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		15週	発表会 4	グループの一員として役割を担い、制作、分析、検証を行い、より精度の高い成果物を完成することができる。 B1-3
		16週	成績確認	内容の理解度を確認する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	2	前11,前12,前13,前14,前15,後1
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	2	前11,前12,前13,前14,前15,後1
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	2	前11,前12,前13,前14,前15,後1
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	2	前11,前12,前13,前14,前15,後1
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	2	前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5

				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	2	前11, 前12, 前13, 前14, 前15, 後1, 後2, 後3, 後4, 後5
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	2	前11, 前12, 前13, 前14, 前15, 後1, 後2, 後3, 後4, 後5
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を实践できる。	2	前11, 前12, 前13, 前14, 前15, 後1, 後2, 後3, 後4, 後5
		英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	2	後12, 後13, 後14, 後15
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2	前11, 前12, 前13, 前14, 前15, 後1

			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2	前11, 前12, 前13, 前14, 前15, 後1
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	前11, 前12, 前13, 前14, 前15, 後1, 後2, 後3, 後4, 後5
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	前11, 前12, 前13, 前14, 前15, 後1, 後2, 後3, 後4, 後5
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	前11, 前12, 前13, 前14, 前15, 後1, 後2, 後3, 後4, 後5
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2	前11, 前12, 前13, 前14, 前15, 後1, 後2, 後3, 後4, 後5
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	前11, 前12, 前13, 前14, 前15, 後1, 後2, 後3, 後4, 後5
			合意形成のために会話を成立させることができる。	2	前11, 前12, 前13, 前14, 前15, 後1, 後2, 後3, 後4, 後5
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	前11, 前12, 前13, 前14, 前15, 後1, 後2, 後3, 後4, 後5
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	前11, 前12, 前13, 前14, 前15
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	前11, 前12, 前13, 前14, 前15
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	前11, 前12, 前13, 前14, 前15
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	前11, 前12, 前13, 前14, 前15
			情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	前11, 前12, 前13, 前14, 前15
			目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	前11, 前12, 前13, 前14, 前15
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	前11, 前12, 前13, 前14, 前15
			複数の情報を整理・構造化できる。	3	前11, 前12, 前13, 前14, 前15
			特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	前11, 前12, 前13, 前14, 前15
			課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	前11, 前12, 前13, 前14, 前15
			グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	前11, 前12, 前13, 前14, 前15
			どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	前11, 前12, 前13, 前14, 前15
			適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	前11, 前12, 前13, 前14, 前15
			事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	前11, 前12, 前13, 前14, 前15
			結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	前11, 前12, 前13, 前14, 前15

				周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	前11,前12,前13,前14,前15
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	前11,前12,前13,前14,前15
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	前11,前12,前13,前14,前15
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	前11,前12,前13,前14,前15
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2	前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2	前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2	前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2	前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	2	前11,前12,前13,前14,前15
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	2	前11,前12,前13,前14,前15
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	2	前11,前12,前13,前14,前15
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,後2,後3,後4
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10

態度・志向性(人間力)

態度・志向性

態度・志向性

				企業には社会的責任があることを認識している。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	80	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	80	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0